



平成 27 年 度
夏休み子ども向け公開講座
実施報告書

【講座日程】

8月 17日 (月) : 理科

8月 18日 (火) : 英語

8月 18日 (火) : 音楽 I

8月 19日 (水) : 国語

8月 19日 (水) : 音楽 II

8月 20日 (木) : 図画工作

千葉敬愛短期大学

総合子ども学研究所

はじめに

千葉敬愛短期大学
学長 明石 要一

「夏休み子ども向け公開講座」は、本年度で 10 年目を迎えました。この公開講座は、佐倉市の「市民公開講座事業（委託）」の一環で、千葉敬愛短期大学が委嘱をいただいて今日まで実施してきました。企画運営は当大学の「総合子ども学研究所」が行いました。今年、実施した活動は以下の通りです。

- 理科・・・対象は4～6年生。色素の勉強をしました。身近な液体にある色素を加えると様々な色に変化する様子を学びました。液体には特有の性質があることを理解しました。
- 図画工作・・・対象は3～6年生。ポスターや風景画など、小学校の夏休みの課題と一緒に製作しました。イメージしたデッサンを水彩絵具で着色して完成させました。
- 国語・・・対象は5～6年生。すてきな本との出会いを大切にします。その本を読み感想文を書くワークショップをしました。夏休みの課題に役立ちます。
- 音楽Ⅰ・Ⅱ・・・対象は3～6年生。Ⅰでは「お箏」に触って弾く練習をし、合奏を楽しみました。Ⅱは手作りの楽器を作って遊びました。夏休みの課題の工夫にもなりました。
- 英語・・・対象は3～6年生。英語の歌を歌ったり、ゲームを楽しみながら劇を作り上げました。

今年も 127 名という多くの子どもが参加してくれました。夏休みは子どもにとって、学校では味わえない体験をするチャンスです。本学のスタッフが子ども目線で活動を展開しました。おかげさまで子どもたちから感謝とお礼の言葉をいただきました。

体験活動はすぐに成果が出るものではありません。年を重ねるごとに成果が出てきます。体験は即効薬でなく漢方薬なのです。

体験にはゴールデン・エイジというものがあります。小学校 3～5 年生の時に始めると効果が高い、というのです。夏休みはまさに「体験のゴールデン・エイジのステージ」といえるのではないのでしょうか。

当大学と佐倉市は昨年 8 月に包括協定を結びました。これを契機に、本学は今後も佐倉市の子どもと市民の皆様のために持っている教育資源を提供させていただくつもりです。

終わりに、この貴重な機会を提供して下さいました佐倉市教育委員会並びに関係者の皆様に感謝と敬意を表します。

「楽しい科学実験」

「理科:林 孝憲 専任講師」

「2015/8/17」



平成 27 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告書

講座公開日 平成 27 年 8 月 17 日 (月) 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開講科目 理科

参加人数 : 28 名

【講座内容について】

小学 4 ~ 6 年生を対象に身近な材料を用いて、化学・地学実験を行った。化学実験では紫キャベツのしぼり汁を指示薬とし、身近にある溶液（お酢など）の性質（酸性・中性・アルカリ性）を調べた。また地学実験では、いくつかの条件のもとでフラスコ内で雲を発生させた。

【講座実施についての感想】

高校生のボランティアも加わったことから、よく目が届き、例年に比べ、参加した子どもたちも安心し、落ち着いて勉強できていた。

【実施についてどのような効果があったか】

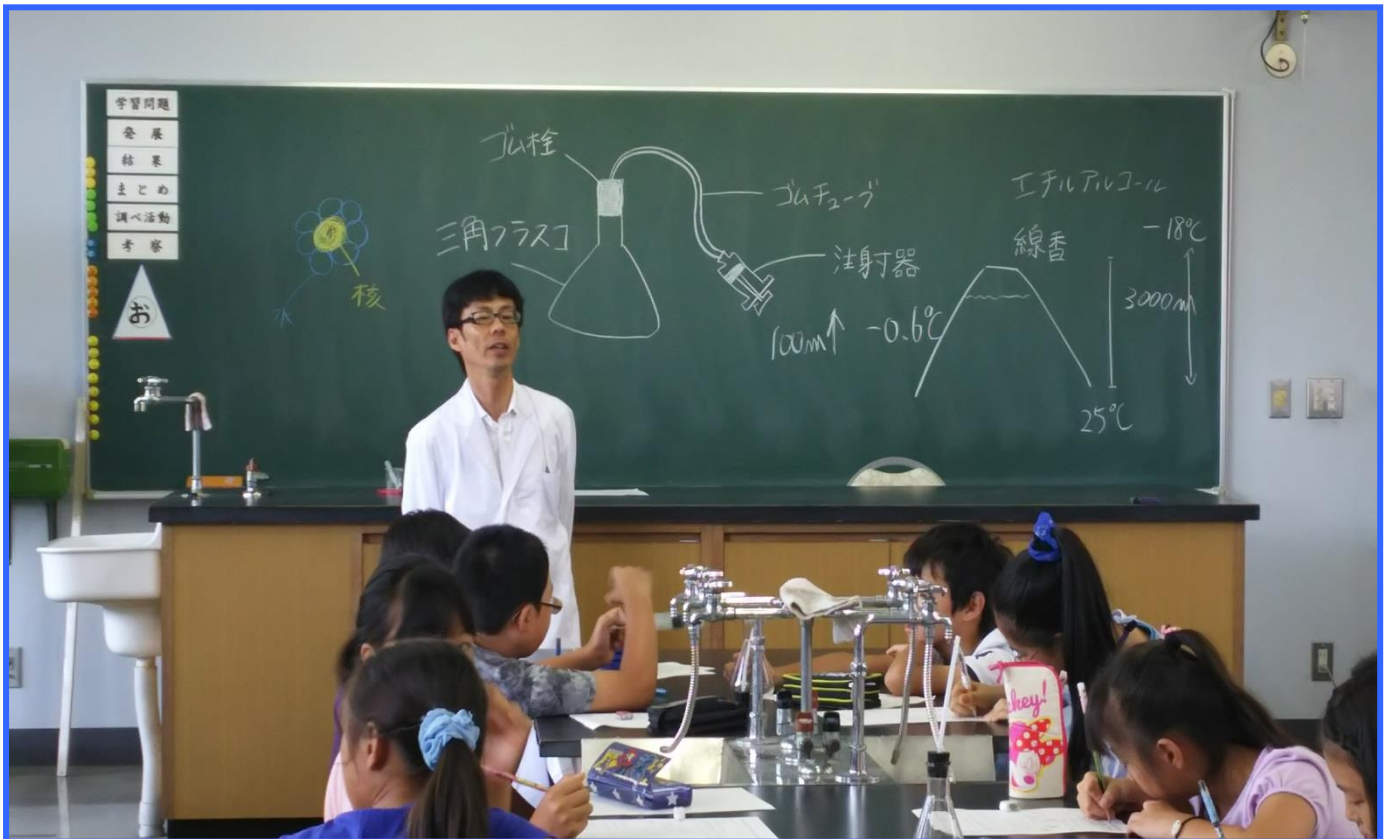
本学と地域との結びつきに貢献できたのではないかと考えている。

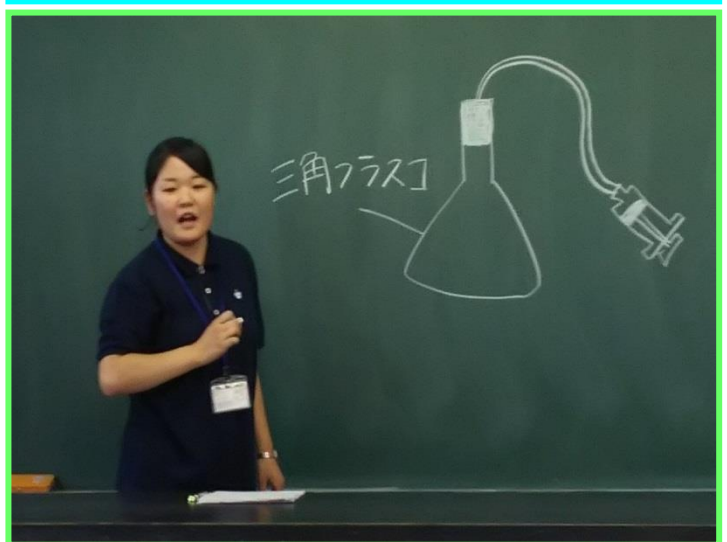
【その他】

今回は高校生のボランティアも加わり、企画・実施の意義がさらに大きなものになったと考えられる。



「楽しい科学実験」





「英語であそぼう！」

「英語:米川 聖美 非常勤講師」

「2015/8/18」



平成 27 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告書

講座公開日 平成 27 年 8 月 18 日 (火) 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開講科目 英語であそぼう!

参加人数 : 28 名

【講座内容について】

平成 26 年度より英語が小学校の授業に組み込まれ、ますます英語教育への関心が深まっています。

小学校における「英語活動」は、その語句が示すように、知識として英語を学ぶというよりも、英語を用いた「活動」という体験を通してコミュニケーション能力を身につけることが求められます。

そして、コミュニケーションを通して他者への理解を深め、広い世界を知ることとなり、視野が深まっていきます。このように、異なる文化を持った人々とも、共に生きる資質や能力が育成されることに、小学校の英語教育の意義があります。

今回もこのような主旨を踏まえ、初めて出会い、また学年も違うさまざまな児童たちが、自己紹介ゲームなどのゲームや英語の歌を楽しみながら、最後にはみんなで、英語劇「七匹の子やぎ」を創り上げ、大きな達成感を味わえるような内容を意図しています。

【講座実施についての感想】

今回は助手として7名の方々にお手伝いいただきました。先生役に本学1年生が3名、そのアシスタントに千葉女子高校の学生さんが4名です。

先生役の2名は教科の中で小学生のための「児童英語」を半年間学んでおり、1名は千葉女子高校の卒業生です。打ち合わせ段階から内容に関して積極的な意見が活発に出るなど、とても頼もしく思いました。

全体の事前打ち合わせでは、「小学校における外国語活動」について説明をした上で、文字を使わずにみんなが楽しく活動できるように留意すること。また、例年みんなの輪に素直に入ることが難しい児童もいるが、それもひとつの個性だから、温かい言葉かけをしてお互いに寄り添えるよう見守ってほしいことを、お手伝いいただく全ての学生さんたちと確認しました。

当日は、先生役とアシスタントの高校生の学生さん同士のチームワークが素晴らしく、そのお蔭でしょう、児童たちもとても伸び伸びと楽しそうに活動に加わっていました。

また3つのチームに分かれての最後の劇では、先生役の3名の学生さんに任せした演出に個性が出ており、お母さんたちから「それ

ぞれ工夫されていて面白く拝見できました」と好評をいただいた上に、参加した児童たちにも大変喜んでいただき嬉しい限りです。

【実施についてどのような効果があったか】

猛暑の中、13の小学校の3年生から6年生まで28名が参加してくれました。最初は緊張して不安そうな態度の児童もいましたが、ゲームや歌が進むにつれて楽しそうに発話し、たくさんの友達ができたと報告をしてくれました。また助手の学生さんたちに優しくフォローしてもらえ、ひとりで参加した児童も積極的に劇に取り組むことが出来ました。

また参加協力してくださった学生さんたちにとっても、空論ではなく実際の現場でどのように自らが動き、児童を動かすかを身を持って体験していただいたことには、大きな意味があると思います。

今回の講座では、児童と教育者を志す学生さんたちとの相互に大きなプラスの効果があったことを、嬉しく思います。

また、昨年はお母さんのそばで兄弟たちの活動を参観していた児童たちが、今夏は自分が参加できると楽しみに来てくれたことも、毎年新たに感激することでもあります。そうした意味においても、私にとっても「英語活動」の役割を再認識する時間でもありました。

【その他】

今回の講座におきまして、お手伝いの学生さんを3名に増やして

いただけるよう、大学側をお願いいたしました。折角、授業で「児童英語」を学び小学校教師を希望する学生さんに、実践させてあげたいと思ったからでした。

世の中では経費削減が当たり前になっておりますのに、敬愛短期大学では学生のためならばと快諾いただき、本当にうれしく存じます。学長先生、谷中先生、事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。



「英語であそぼう！」





「みんなで箏を弾いてみよう」

「音楽」：鈴木 由美子 非常勤講師

「2015/8/18」



平成 27 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告書

講座公開日 平成 27 年 8 月 18 日 (火)

9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開講科目 音楽 I

参加人数 : 1 6 名

【講座内容について】

小学生にとって、ピアノのように触れるチャンスのない和楽器「箏」。実際に、自分自身で目にし、音を出し、箏の音の美しさや、演奏技法の面白さを体験した。講座の初めは、箏の歴史や楽器の各部の名称など基礎知識を学び、後に一人ずつ目の前にある楽器に触れた。楽器を弾くには「勘」や「覚える」だけではなく、「楽譜を読む」ことが必要になる。一人ずつ箏に触れながら、その過程で生田流の「^{いとふ}絃譜」を説明した。各個人で触れることに慣れてきた頃合いを見計らって、合奏することを経験した。

11:40 位からミニコンサートを行い保護者の皆さまに今日学んだ箏の演奏を披露した。(日本古謡:さくらさくら、童謡:夕焼け小焼け)

参加予定者 17 名、当日参加 16 名だったため、希望する保護者の参加も可とした。

【講座実施についての感想】

今回の講座参加者は、全く箏に触れた事のない児童が殆どであった。他の講座と違い、「読む、聞く、触れる」すべて始めの一步か

ら始まる。途中、体力的に辛そうに見える児童もいた。しかし、誰一人として弾くことを止めようとはせず、大変驚いた。「手が痛い」「疲れた。」と言いながらも、最後のミニ・コンサートをやり遂げた後には、多くの児童がニコニコしながら「楽しかった。」と感想を持っていた。

講座が終わってからも、「もう少し弾く。」と言って何人か保護者と共に残り、弾けるようになった曲を嬉しそうに聞かせていた。そこには参加年齢でない兄弟も来ていたが、保護者と共に真剣にその姿を見ていた(その後、保護者も兄弟も箏に触れていた。)その表情がとても楽しそうで、見ている私にも感動があった。

【実施についてどのような効果があったか】

この音楽Ⅰの目的は、箏に触ることを体験し、音を出すことを皆で楽しむ事であるが、実はそれだけではなく、挨拶から始まる作法、所作、初対面の人との関わりの持ち方、集団の中の一員としてどうやって自分を表すかということを含み講座を行った。

本講座は、先ず一人ずつの挨拶から始まる。他の参加者の事を知り、ボランティアの学生、高校生の事を知り、私を知ってから始まる。初めは、緊張して笑顔もなく、声も小さく、当然出す音も小さかったが、最後のミニ・コンサートでは、それぞれが自分の役割をしっ

かりとした音で果たした。箏の演奏を経験し、学びの成果を保護者の方々の前で披露し、僅かではあるが集団の中で自分を主張し活かすための方法に触れることができたと思う。「できた。」という達成感と「やり遂げた。」「ママの前で弾けた。」という満足感は、(本講座は形になって持って帰れる物がないのだが)良い夏休みの経験となったと思われる。

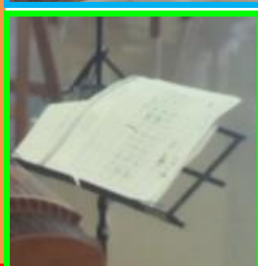
【その他】

今年の講座は、ボランティアとして学生2名、千葉県立千葉女子高校箏曲部から4名参加があった。皆アシスタントとして、とても良いサポートをしてくれた。本学の学生たちは、箏に触れるのが初めてだったため、事前にレクチャーを行い箏の経験をしてもらった。高校生ボランティアには、講座途中で演奏もお願いし、見事に果たしてくれた。学生ボランティアの児童に対する接し方、言葉かけ、気配りは大変素晴らしく、子ども達の緊張を解く良い働きかけとなった。



「みんなで箏を弾いてみよう」





「読書感想文を書きましょう」

「国語：鈴木 健一 准教授」

「2015/8/19」



平成 27 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告書

講座公開日 平成 27 年 8 月 19 日 (水) 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開講科目 国語 (読書感想文を書きましょう)

参加人数 : 14 名

【講座内容について】

違う小学校に通う同じ学年の男女で、相手が読んだことのない本を持参した者どうしになるように配慮してペアを作らせた。相手の持参した本について知りたいことを三つ書いて交換させた。(相手の知りたいことは感想文の材料の一つになると説明した。) その後、次のようにした。

〔前半〕 講義形式の全体指導 レヂュメ使用

ア 「感想」とはどのようなものか。「感」とは。「想」とは。

イ 感想を書くにあたっての心構え

ウ 感想文における大事な要素

エ どう書くか。

〔後半〕 個別指導

台紙を配付し、まず、枠内に書名と選んだ理由を記入させた。個

別に点検し、不足なく書けている子どもには文種に合わせた質問

用紙を配って記入させた。点検して次の用紙を、という作業を繰り返

返し、できたものを台紙に貼らせていって構想プランにした。

【講座実施についての感想】

書きたい本が違えば、当然感想も違ってくる。一人一人違ったものができてくるので、個別に関わる必要がある。また、フィクションかノンフィクションかで指導内容も異なる。今回のような人数が適当である。どう書くかの前にどんなことを書くかが分かっていなくてはならない。項目を提示し、一人一人と向きあって確認する作業を大事にした。時間内に文章を書く段階に届いたのは数名だったが、その後は自分でできるところまで全員到達できた。

【実施についてどのような効果があったか】

「感想」や「感想文」についての認識を改めたり深めたりすることができたと思う。読書感想文に欠かせない要素、読書感想文を書く上での手順や留意点にも気づかせることができた。今回の学習を経験して、こうすれば書けるんだという手応えを一人一人がつかめたのではないかと考えられる。

【その他】

今回は、発達段階や目指すところを意識し、対象を高学年に限定して実施した。運営面、また児童同士が交流をするという面からも効果的であったと言える。



「読書感想文を書きましょう」



相心 感心
 読んでほしいと思って書く。
 自分で思ったことを素直に書く。
 作者の気持ちやこれから読む人のことも考えて書く。
 見やすく
 ていねいの丁寧に見やすく
 ゆっくり書く。
 線や点をくずさず、きちんと書く。
 分かりやすく
 文を長くしない。
 知っている漢字は使う。



「手作り楽器 作ってあ・そ・ぼ」

「音楽II:谷中 優 教授」

「2015/8/19」



平成 27 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告書

講座公開日 平成 27 年 8 月 19 日 (水) 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開講科目 手作り楽器 作ってあ・そ・ぼ

参加人数 : 15 名

【講座内容について】

最初の自己紹介のあと、手作り楽器の作り方の説明を本学補助学生の实演を交えて行った。

昨年度の実施で好評だったアフリカの民族楽器「レインスティック」をモデルに、今年も引き続き同じものに取り組んだ。

元々レインスティックはサボテンの一種の植物の幹や枝を使い、サボテンのトゲを取り払って内側に刺し込み、筒の中に乾燥した植物の種を入れたもので、サラサラと水の流れる音がする。

その代用に料理用ラップの芯を 2 本使い、トゲの代わりに釘、種の代わりに小豆ほどの小石を使用した。途中、休憩を挟みながら参加者全員が作品を完成させ、其々の音を楽しむことができた。

サプライズとして、予定になかった「ミラクルホース」(1 分でできる手作り楽器)を体験し、そのホースはおみやげとして全員に持ち帰ってもらった。

【講座実施についての感想】

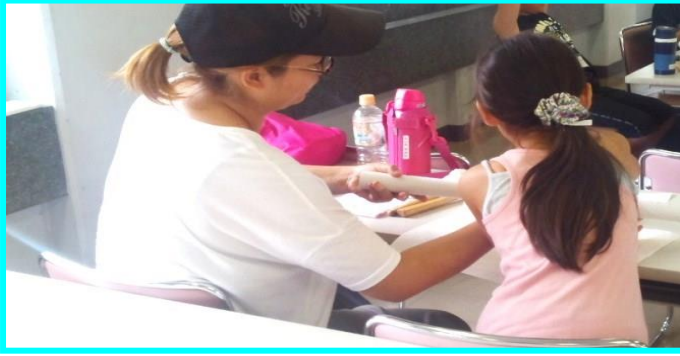
本学学生と千葉女子高生、千葉大大学院生のボランティアの補助活動もさることながら、参加児童の時間を忘れた一生懸命な取り組みとともに、付き添いの保護者の方々の熱心な参加があり、大変有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

【実施についてどのような効果があったか】

- 1.参加児童全員が手作り楽器を完成させ、音の工夫と発見があり、音を楽しむ体験ができたこと。
- 2.参加児童のみならず、保護者やそこに一緒に来た子どもたちも楽器づくりに参加したことによって、音を楽しんだことは勿論、作業をとおして親子のコミュニケーションが図れたこと。

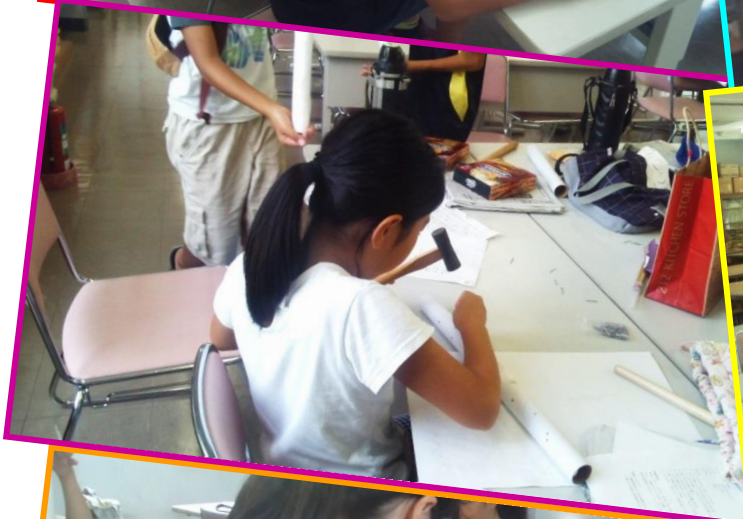
【その他】

本学学生とともに、千葉女子高生、千葉大院生(個人参加)の補助活動がすばらしかったことを記すとともに、本学研究所委員・事務局スタッフの準備・運営に感謝したい。



「手作り楽器 作ってあそぶ」





「夏休みの課題(ポスターや風景画等)の製作」

「図画工作:久保木 健夫 専任講師」

「2015/8/20」



平成 27 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告書

講座公開日 平成 27 年 8 月 20 日 (木) 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

開講科目 図画工作

参加人数: 26 名

【講座内容について】

佐倉市内の各小学校で出題される「夏休みの課題(図画工作科のポスター製作)」を、本講座で実施した。例年、参加児童が事前にテーマを決め、必要な描画材料や資料を持参し、可能であればデッサンを描いてくることとしている。本講座では、参加児童のイメージや構図等を確認し、作品の発想や構想段階を共に考え、製作する形をとっている。講座の時間内での作品の完成を心掛けているが、作品が完成できない場合には、各自が自宅に持ち帰って完成させることになる。ここ数年、本講座には本学の学生アシスタントが 2 名参加しており、学生にとっても貴重な体験と学びの場になっている。また、今回は初の試みとして、高校生のジュニアスタッフ(千葉県立千葉女子高等学校の生徒 2 名)が参加した。図画工作の講座では、児童と共に高校生も製作しながら、スタッフとしても活躍する役割が想定された。保護者も見守る中で、本講座は進行した。

【講座実施についての感想】

参加児童は、各自の考えに基づき、試行錯誤しながら、楽しく集中して製作することができていた。児童の中には、しっかりした資料や書籍を持参したり、当日に図書館等で調べたりしながら、自分なりに表現する根拠を持って取り組む姿も見られた。約8割の児童は、作品を時間内に完成させることができた。製作中は、こちらからの指導が過度になると、児童が萎縮し、表現する際の主体性や意欲が制限されてしまう場合があるので、できるだけ見守りながら、児童の表現しようとする気持ちを受け止めることを心がけた。

【実施についてどのような効果があったか】

参加した高校生は、教員志望も一つの選択肢として考えている様子で、自身が製作するよりも、造形活動等を通じて児童と直接関わることの方に関心が向いていたと感じている。実際に児童と直接関わる体験は、非常に有益な方法の一つであり、それは本学の学生にとっても同様だろう。本講座を通して、本学を取り巻く地域の方々と交流することができ、筆者共々、貴重な学びの機会となった。

【その他】

今後とも是非こうした機会を与えていただきたい。



「ポスターや風景画等の製作」



